

第5回あり方検討委員会資料

前回の委員会で出された意見の論点整理

◎学校を集約することのメリット

- 多くの人数
 - ・多くの人とかかわれる
 - ・いろいろな考えにふれることができる
 - ・切磋琢磨できる
- 複数の学級
 - ・学級編成替えが可能
 - ・人間関係がリセットできる
 - ・固定化された序列が崩れる
 - ・学年としての活動に幅が生まれる
- 施設・設備面
 - ・一つにお金かけられる
- 教職員の確保
 - ・多くの人数が確保できる

◎学校を集約することのデメリット・課題等

- 通学の問題
 - ・歩いて通えない 道草、体験
- 地域とのかかわり
 - ・地域感情
 - ・地域の文化
 - ・学校ボランティア

◎進め方等

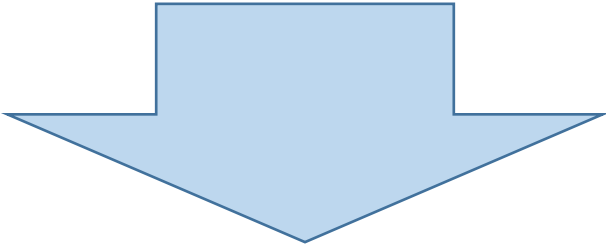
- 先に方針、ゴール等を示して進めた方がよい
- 辰野町として学校のあり方を考える時期に来ている
- 思い切ったやり方をしないと新しいものは生まれない
- 丁寧な進め方でよい
- 財政の面を切り離して考えることはできない

◎新たな学校の形

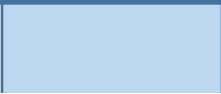
- 小中一貫校
- ※小中の連続した学び
校長、職員集団はそれぞれ
教員、同士の交流も
施設の分離も可能
- 義務教育学校
- ※9年間の一貫した教育課程
校長は一人、職員集団も一つ
5・4制など柔軟な対応
教員は小中両方の免許が必要
・中学生が小学生の面倒を見る
・教職員も子どもをみる眼が広がる
・途中で他の学校へ行けるのか

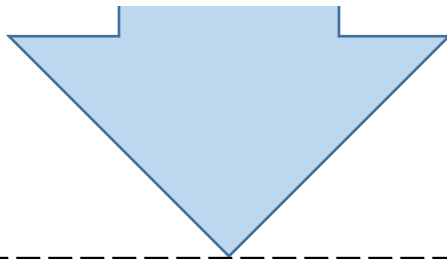
◎課題等への対応等

- 低学年は地域、高学年は一つ
→通学、地域とのかかわり
- つまずいた時の居場所
 - ・学校の中で小さな居場所の確保
 - ・リモートで対応
- 不登校、いじめを前提とせず
不登校、いじめのない学校をめざしたい
- 幼保も合わせて考えたい
 - ・発達段階に応じた学びとつける力
 - ・中学生が園児の面倒を見る



◎「少子化の進展に対応した新たな学校」として、学校を集約せざるを得ない。





■第5回

◎「辰野町の新しい学校」について

○学校の集約のあり方（第4回までにいただいたご意見）

- ・小中一貫校
- ・義務教育学校
- ・小学校を集約する
- ・いずれ小中まとめる
- ・西と東で大きな一つの学校、南を小さな学校
- ・低学年は地域、高学年は一つ

○学習会

- ・「小中一貫校」と「義務教育学校」の実際

○学習会を踏まえ、「辰野町の新しい学校」について意見交換

- ・「新しい学校」は、子どもたちにとって、そして町民にとって夢や希望の
持てる学校にしたい